

臨時レポート

円ドル相場動向と見通し

一時約5ヵ月ぶりに1ドル108円台に上昇

- ▶ 地政学リスクが高まる中、トランプ大統領の会見内容が円高を加速させた可能性も。
- ▶ 地政学リスクやフランス大統領選等欧州の政治リスク、米国の暫定予算切れ問題等懸念材料多く、投資家のリスク回避姿勢から当面円高傾向が続くものと思われる。

～円ドル相場動向～

- 北朝鮮やシリアなどを巡る地政学リスクを警戒し、ドルを売り相対的に安全資産とされる円を買う動きが優勢となっていました。そうした中、トランプ大統領が米経済紙とのインタビューで、「ドルは強くなり過ぎている、アメリカの金融政策は低金利政策が望ましい」との発言をしたと伝わったことが円買いの流れを加速させました。トランプ大統領はドル安を志向していると受け取られたこと、これまでの円安ドル高の主な要因となっていた日米金利差拡大観測が後退したこと等から、12日のニューヨーク外為市場で一時的約5ヵ月ぶりに1ドル108円台まで上昇しました。

～当面は円高傾向が続くものと思われる～

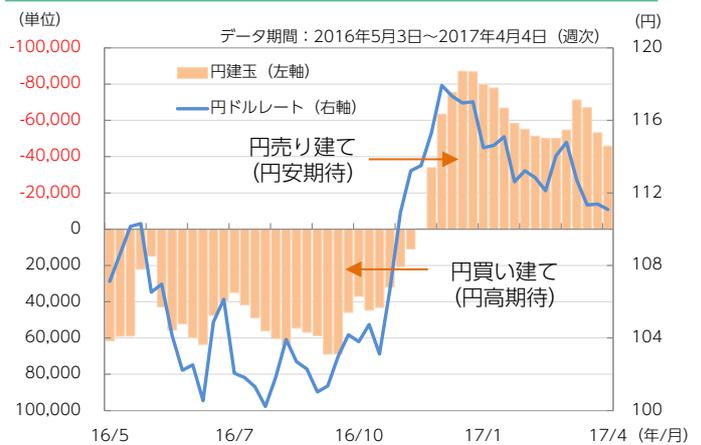
- トランプ大統領は中国に対し、核やミサイル開発を進める北朝鮮への制裁強化を迫っています。仮に中国が何らかの行動を起こさない場合は軍事的手段を含む米国単独の行動もありうることを示唆しています。中国の対応を巡りリスクを取りづら環境が続くようです。更に、欧州の政治リスクや米国の暫定予算切れ問題等も懸念材料です。4月23日にフランス大統領選（過半数を獲得する候補者がいない場合は、上位2名による決選投票が5月7日に実施）を迎えます。反EU（欧州連合）・自国第一主義を掲げフランスのトランプとされるルペン候補が注目されています。選挙の結果次第では反EUの流れが強まる可能性もあり、リスク回避の要因の一つとなっています。米国では4月28日に暫定予算の期限を迎えます。前オバマ政権下では政府と議会がネジレ状態（民主党政権と共和党議会）にあったこともあり、2017会計年度（2016年10月～2017年9月）予算は7ヵ月間の暫定予算となっています。その期限が4月28日に到来します。仮に同会計年度の残された期間（4月29日～9月30日）の予算対応が出来なければ、政府機関の閉鎖等不測の事態に陥ることも考えられます。
- リスク回避のための円買いに加え、需給面でも円高継続の圧力が強まる可能性があります。投機筋は円安ドル高進行を想定した持ち高（円の売り越しポジション）を作っています（4月4日時点）。今後の発言等でトランプ大統領がドル安や低金利を志向しているとの見方が更に強まる場合には、持ち高解消のための円買戻しが活発化することも想定されます。

図表1：日米金利差（注）と円ドルレート



(注) 日米の10年国債金利の差 (米国-日本)

図表2：投機筋の円持ち高（注）と円ドルレート



(注) シカゴ・マーカンタイル取引所の国際通貨先物市場に上場されている通貨の建玉状況で、投機玉と商業玉に分かれる。当資料の棒グラフは円(対ドル)の投機筋の建玉明細(ネット)。

出所) 図表1～2はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会